さいたま市議団ニュース

日本共産党

No.836
2019.6.2

日本共産党さいたま市議会議員団
TEL 048-829-1811　FAX 048-833-8165
http://www.jcp-saitama.jp/

発行
神田よしゆき　とば　めぐみ
とりうみ敏行　金子　あきよ
松村　としお　たけこし　連
久保　　みき

住宅街に銃声　訓練に不安広がる

平和委員会が市と懇談

両平和委員会と危機管理課の懇談に同席するとりうみ市議（右上）

5 月 24 日、自衛隊大宮化学学校と陸上自衛隊大宮駐屯地について、おおみや平和委員会とさいたま南平和委員会が市の危機管理課と懇談しました。この懇談には、党市議団からとりうみ敏行市議が同席しました。

はじめに、事前に渡していた要望書について市から回答を受けました。市と自衛隊との連携体制については、住民の声を届ける機会として年 1 回の検討会があるが、災害時対応が主で議事録は作成していないと回答がありました。

また、自衛隊大宮化学学校については、2～3 月にかけて 4 種類の危険物を製造し 1 年間研究した後、翌年 5 月に廃棄することを毎年繰り返しているとのことでした。

また、自衛隊大宮駐屯地内の宿舎跡地について、市は自衛隊から駐屯地としての有効利用を検討していると聞いているが、具体的に示されていないと回答。参加者からは「駐屯地の拡大につながるのではないか」という懸念が出されました。

懇談では、大宮駐屯地内における銃砲訓練に対する近隣住民の不安が出され、銃砲訓練自体を止めるよう求める声が出されました。市は、「実弾ではなく空砲であり、市民から騒音の苦情はとくに入っていない。自衛隊から自治会に事前連絡していると聞いている」として、銃声を「騒音」としかとらえていない姿勢が明らかになりました。

参加者からは、「空砲とはいえ、銃声は工事等の騒音とは違う。住民に不安をもたらすものであり、子どもたちの心に与える影響も大きい。市の申し入れを求める」との要望が出され、市から自衛隊に申し入れることを約束しました。

6 月議会　請願の採択に全力

日本共産党さいたま市議団が紹介議員になった請願をご紹介します。

低所得世帯にエアコン購入費の助成等を求める請願	生活と健康を守る会・さいたま市協議会
特別養護老人ホームの増設を求める請願	さいたま市社会保障推進協議会
小・中学校の体育館及び小学校の特別教室にエアコン設置を求める請願	新日本婦人の会 4 支部（浦和・大宮・与野・岩槻）

また、党市議団として提出した意見書（案）は次の通りです。

- **プラスチックごみ対策強化を求める意見書（案）**
- **幼児教育・保育の無償化に関する意見書（案）**
- **AED（自動体外式除細動器）の普及促進を求める意見書（案）**

小学校建設を急いで

見沼区　現地説明会ひらかれる

現地見学会に参加するとば市議（左から 5 人目）

5 月 22 日、「大和田 1 丁目に小学校建設を早期に求める会」と住民のみなさんが大和田 1 丁目の小学校建設予定地を視察し、区画整理組合等の職員から説明を受けました。この視察には、とばめぐみ市議が参加しました。

現在、隣接する調整池の工事が「2020 年度末に完成予定」と順調に進んでおり、同時に学校予定地の外周道路も、「今年度から着工し、上下水道などライフラインの整備、道路整備を進め、2022 年度完成を予定している」と説明がありました。

参加した住民からは「子どもの遊ぶ場所がない。公園予定地を開放して」などの要望も出されました。5 月 30 日には、学校建設について市教育委員会から建設計画を聞く、同会主催の説明会を予定しています。

緑区 教育センター跡地 解体工事で要望

懇談であいさつする松村市議

5月21日、緑区三室の総合教育センター跡地の建物解体について、「教育センター跡地利用を考える会」が埼玉県と懇談・要望をおこない、党市議団から松村としお市議が同席しました。

今年度、埼玉県は同跡地解体工事に約8億円の予算をつけました。工事は冬からはじまり、来年度に渡る見通しです。住民がもっとも不安に感じているアスベスト対策については、解体工事の業者が決まってから説明会などが具体化されることが懇談で明らかになりました。参加者からは、工事説明会を広く知らせることと合わせて、住民が参加しやすい開催曜日や時間を設定することや、県の担当者が説明会に同席すること、アスベストの使用状況等の情報を開示することなどの要望が出されました。

松村市議は「粘り強い住民運動とくり返しの議会質問でようやく防災公園に向けた計画が動きはじめた。解体・整備過程も安心・安全にすすめられるよう、県と市の協力を求めたい」と話しています。

桜区 水路の蓋かけで 安全な歩道にして

要望書提出に同席する久保市議（右端）

5月14日、「住みよい桜区をめざす連絡会」のみなさんが、水路に蓋かけをして歩道の整備を求める要望書を、246筆の署名を添えて市に提出しました。要望書の紹介議員でもある久保みき市議が同席しました。

桜区道場の栄和南住宅北側を通る道路には、幅約2m、深さ約3mの水路があります。この道路は歩道がなく道幅もせまいため、とても危険です。近隣住民は、蓋をかけて歩道にして歩行者の安全をはかってほしいと要望しています。

市との懇談には、近隣住民や栄和小学校に子どもが通っている保護者も参加しました。参加者からは「いま全国で重大な交通事故が相次いで起こっている。この道路は栄和小の通学路になっており、事故が起きてからでは遅い。途中までは蓋かけがされて歩道になっているから、その先も蓋かけはできるはず。市は市民の命を守る立場で早急に歩道を整備すべき」と強い要望が寄せられました。

さいたま市ソーシャルファームに疑問と不安の声

障害者雇用の拡大うたうが…

今年2月「さいたま市と協定を結び、障がい者が働く農園ができる予定です！」というチラシ（左）が、福祉部長名の案内とともに市内の障害者あてに郵送されました。

障害者団体の方と懇談する（右から）金子、とば、久保の各市議

この「さいたま市ソーシャルファーム」という事業は、株式会社「エスプールプラス」が民間企業向け貸し農園を運営、企業と雇用契約を結んだ障害者が「エスプールプラス」の貸し農園で働くことで、企業は障害者法定雇用率を達成できるというしくみです。ところが、障害者が働く場は雇用された企業ではないため、企業側は障害者の働く環境を改善する必要性が生じないという問題があります。

党市議団は、この事業について障害者団体と懇談をおこないました。団体の方からは、さいたま市の事業として進めることへの疑問や、働く障害者に対する支援内容についての不安がある、との声が寄せられました。

今後、党市議団として障害者の働く場の拡大と共生社会の推進のために、このソーシャルファーム事業が果たす役割と問題点について注視していきます。

あなたの身近な議員です

市議（北区）	市議（浦和区）	市議（緑区）	市議（桜区）	市議（見沼区）	市議（南区）	市議（中央区）
神田よしゆき	とりうみ敏行	松村としお	久保　みき	とばめぐみ	金子あきよ	たけこし連